

つどい

第 441 号
2025. 7. 1発行・豊中歴史同好会
責任者 小川 滋

敏達天皇の仏教迫害伝承について

『日本書紀』と『元興寺伽藍縁起』の比較から

堺女子短期大学副学長 水谷 千秋

一 はじめに

二 敏達朝の仏教迫害伝承

三 『元興寺伽藍縁起』の仏教迫害伝承

四 『元興寺伽藍縁起』の推古天皇の誓願文

一 はじめに

周知のように百済からの仏教伝来を『日本書紀』は欽明天皇十三年(西暦五五二年)、『元興寺伽藍縁起』や『上宮聖徳法王帝説』などは欽明天皇七年(五三八年)としています。ただ仏教に対して在来の豪族層の中に強い反発があったことは諸書で一致して

います。皆が反対する中、大臣の蘇我稲目一人がこれを尊崇すべきことを訴え、その結果、天皇が百済の聖明王から貰い受けた丈六の仏像は、いったん稲目の預かるところとなったと記されています。

なぜ仏教受容に対して多くの豪族は反発したか。あるいは『日本書紀』等の伝える反発は本当にあったのか。史実として仏教への反発はあったというのは、本郷真紹氏などの見解で、理由は外来の宗教である仏教を取り入れると、天皇の宗教的権威が危うくなるからといった懸念から起きたとし

敏達天皇の仏教迫害伝承について

『日本書紀』と『元興寺伽藍縁起』の比較から

枚方市の遺跡を訪ねる

水谷 千秋
古高 邦子

ます。反発はあったが、理由は宗教的なものよりも政治的理由によるとするのが、日野昭氏などの見解です。物部氏らが仏教に反対したのは、当時ライバル関係にあった蘇我氏との対立が主因であろうというのです。

またそもそも対立などなかった、当初から物部氏らも仏教を受け入れていたというのが、加藤謙吉氏などの考え方です。私自身は仏教受容をめぐる対立はあったが、その主たる要因は政治的対立にあったとする日野昭氏の説に近いです(拙著『謎の豪族蘇我氏』文春新書)。

さてこの対立は欽明朝だけに留まらず、その後も続きます。結局、最初は少数派だった蘇我氏を始めとする受け入れ派が多数となり、最後まで反対していた物部氏が滅